

山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料 —目的別分類からの考察—

Investigation report on "OURAIMONO" documents of The Yamagata Prefectural Museum possession: A study based on the purposeful classification analysis

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

山形県立博物館の教育資料館に所蔵されている文献資料について調査を行い、特に近世期江戸時代に作成された往来物資料の所蔵状況について検討考察した。その結果、確認できた所蔵資料数は109本を数え、写本も加えるとかなりの文献資料が所蔵されていることが判明した。本稿では、その所蔵状況について、資料を目的別の9種類—教訓科・社会科・語彙科・消息科・地理科・産業科・理科科・女子用—に分類整理し、その調査結果を提示した。継続的に行ってきた、北東北地域—弘前市立図書館所蔵・秋田県立図書館・酒田市立光丘文庫—所蔵の往来物資料と比較することによって、地域における資料の偏在状況について考察検討し、共通性と相違性についても言及した。目的別に資料分類することを通して、それぞれの地域における教育環境や文化的背景の傾向の一端を明らかにしたものであり、今後の研究基盤になりうるものである。

キーワード：往来物、出版文化、庶民教育、山形、教育資料館

1 研究の方向性について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版されている。

従来の往来物研究は、教育史資料という側面が大きかったが、人間文化形成に果たした役割や社会に与えた影響など、多くの未開拓課題が残されており、新たな視点からの活用が期待されている。

日本社会の近代化に往来物資料が、大きく関わっていたことが予想されるのであるが、文献資料の基礎的研究をはじめとして、その発掘も未だ十分にはすすんでいない現状にある。そうしたことをふまえて、東北地域の往来物資料調査を通して、近世期の庶民生活の一面や教育的背景について考えてみたいと思ってい

る。

本稿では、山形県の県立博物館の教育資料館所蔵の文献資料調査から、どういった往来物が所在しているのかについて紹介し、分類と整理²⁾を試みた結果を提示した。本調査に先立ち、すでに弘前市立図書館、八戸市立図書館、岩手県立図書館、秋田県立図書館、酒田市立光丘文庫が所蔵する往来物資料についての文献調査³⁾を行なっている。原則として、写本は除き、版本に限って、成立時期や出版元を確認し、それらを目的別と出版地別に分類整理して所蔵資料の諸特徴について考察検討を続けている。

写本を除いたのには意味がある。この研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本はもちろん、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的

*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

価値をもつと考えたからである。すべてを詳細に検討するよりも、大要を明らかにするために調査資料をより限定して考察検討する方法をとった。

基本的には、従来の調査手法を踏襲し、山形県立博物館の教育資料館所蔵の往来物資料を調査することにし、分類整理を試みた。また、従来の調査研究—弘前市立図書館・秋田県立図書館・岩手県立図書館・酒田市立光丘文庫の所蔵資料調査結果—との比較検討を必要に応じて交えながら、山形県立博物館教育資料館所蔵資料の特徴的な一面について明示してみたい。それぞれの地域における往来物資料の調査結果を基礎として、今後、地域の教育環境や文化特性などの考察検討につなげてゆきたいと考えている。

2 山形県立博物館教育資料館について

山形県立教育資料館は、山形県立博物館の分館として1980年（昭和55）に開館し、展示室は、明治の面影を残す「旧山形師範学校」の教室を活用した博物館である。江戸時代から現代に至るまでの山形県の教育に関する足跡を知ることができる展示がなされている。

建物は、1973年（昭和48）に国の重要文化財に指定された旧山形師範学校本館である。2008年（平成20）には、経済産業省より近代化産業遺産に認定され、建築技術史的見地からも貴重な遺構とされている。

本稿では、山形県の教育関係の資料が保管されている、教育資料館に注目し、所蔵資料の中でも特に江戸時代に出版された往来物資料について調査し、その状況を分類整理しながら紹介してみたいと思う。山形県では、すでに酒田市の光丘文庫で同様の調査を行っている。酒田市は地理的に日本海側にあり、気候や風土も内陸部である山形市とは様々な点で相違している。教育資料館における状況についての報告は、酒田市との所蔵文献との比較においても有益であり、今後の研究の進展に資する調査と考えられるのである。

3 往来物資料の所蔵状況について

3-1 目的別分類の状況

山形県立博物館教育資料館の調査によれば、往来物資料と判定した近世期版本は、総数109本であった。他にも、近代明治期以降に出版された往来物資料や書写本を含むとすると、かなりの所蔵数が確認される。分類するにあたって、理数科往来⁴⁾については、理学

型〔天文・地学関係・生物関係・窮理（物理）関係〕と算数型を含むものと考えた。植物・本草関係についての文献資料は、ここでは理数科往来に含まないものとして分類整理した。

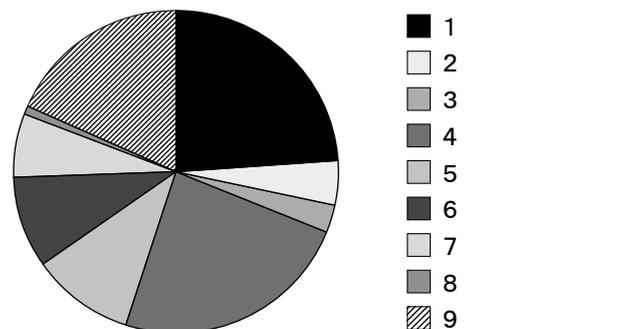
それぞれの詳細な書誌調査と内容分析は、今後の課題であるが、今回の基礎調査を通して、北東北の他地域—弘前市立図書館・岩手県立図書館・八戸市立図書館・秋田県立図書館—には所蔵が見られない文献資料が確認されたことや仙台で出版された文献資料が多数確認できるなど、いくつかの特徴を見いだすことができた。

ここでは特に目的別に分類した調査結果を紹介し、そうした視点から考察検討をすすめてみたい。

往来物資料と認定した所蔵文献について、目的別—教訓科・社会科・語彙科・消息科・地理科・歴史科・産業科・理数科・女子用—の9種類に分類整理し、【図1】にグラフ化して割合を示した。グラフ中の番号は、①教訓科往来、②社会科往来、③語彙科往来、④消息科往来、⑤地理科往来、⑥歴史科往来、⑦産業科往来、⑧理数科往来、⑨女子用往来、をそれぞれ指すものである。

【山形県立教育資料館目的別分類】

① 教訓科往来	26本	23.9%
② 社会科往来	5本	4.6%
③ 語彙科往来	3本	2.8%
④ 消息科往来	26本	23.9%
(庭訓往来系11本含)		
⑤ 地理科往来	11本	10.1%
⑥ 産業科往来	10本	9.2%
⑦ 歴史科往来	7本	6.4%
⑧ 理数科往来	1本	0.9%
⑨ 女子用往来	20本	18.3%



【図1】 山形県立博物館教育資料館所蔵資料における目的別分類割合

総数109本のうち、最も多いのは①教訓科往来と④消息科往来の26本であった。次いで⑨女子用往来20本、⑤地理科往来11本、⑥産業科往来10本と続く。そして⑦歴史科往来7本、②社会科往来5本、③語彙科往来3本が確認され、1本と少ないながらも⑧理数科往来に至るまで、多数多種の所蔵が確認できた。つまり、教育資料館においては、①～⑨までのすべての種類にわたる文献資料が所蔵されていたことが明らかとなった。

【図1】にそれら目的別に分類した資料の所蔵状況について円グラフで示したが、①教訓科往来と④消息科往来はそれぞれ26本で23.9%であった。次ぐ⑨女子用往来は20本で18.3%であり、⑤地理科往来は11本で10.1%、⑥産業科往来は10本で9.2%の割合となる。⑦歴史科往来は7本で6.4%、②社会科往来は5本で4.6%、③語彙科往来は3本で2.8%であり、⑧理数科往来は1本で0.9%という結果となった。

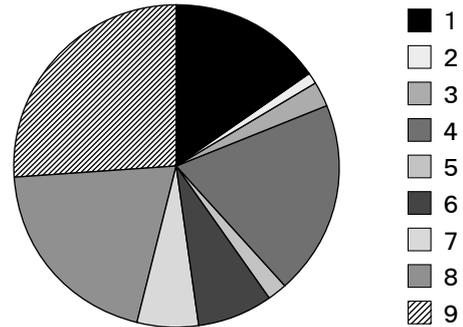
3-2 酒田市立光丘文庫所蔵資料との比較

この目的別の分類による所蔵状況を少し、他地域の調査結果と比較して検討しておきたい。同じ山形県ではあるが、日本海沿岸の酒田市にある酒田市立光丘文庫に所蔵された近世期の往来物資料について調査した結果⁵⁾を参照してみたい。酒田市立光丘文庫における調査では、総数163本の所蔵が確認され、それら資料を目的別に分類整理すると次に示すような結果となった。

【酒田市立光丘文庫目的別分類】

① 教訓科往来	25本	15.3%
② 社会科往来	2本	1.2%
③ 語彙科往来	4本	2.5%
④ 消息科往来	32本	19.6%
⑤ 地理科往来	3本	1.8%
⑥ 歴史科往来	12本	7.4%
⑦ 産業科往来	10本	6.1%
⑧ 理数科往来	33本	20.2%
⑨ 女子用往来	42本	25.8%

【図2】に円グラフで示したが、それと山形県立博物館教育資料館（以下、教育資料館と略称する）の所蔵状況の調査結果を比較すると次のようにまとめることができるであろう。総数については、酒田市立光丘文庫（以下、光丘文庫と略称する）が163本とかなり



【図2 酒田市立光丘文庫所蔵資料における目的別分類割合】

多いのであるが、教育資料館も109本と少ないわけではなく、それぞれに近世期の版本としての往来物の所蔵が確認できた。

そして、最も多い資料は、教育資料館は、①教訓科往来と④消息科往来と同数で23.9%を占めていたが、一方の光丘文庫では、⑨女子用往来が最も多く25.8%であった。そして光丘文庫では第二番目に多い資料としては、⑧理数科往来の20.2%であったが、一方の教育資料館では、理数科往来は1本の所蔵しか確認できず、割合としては1%にも満たないという結果であった。

光丘文庫で最多を占めた⑨女子用往来に関しては、教育資料館においても20本が確認され、18.3%という割合であり、女子用往来はそれぞれの地域で比較的安定的に活用されていた往来物資料であったことが推測できるであろう。

教育資料館での最多を占めた①教訓科往来と④消息科往来については、光丘文庫では、①教訓科往来は25本で15.3%、④消息科往来は32本で19.6%であり、それぞれ資料数としては3番目と4番目に位置づけられるものであり、これらも比較的安定的に活用された資料であったらしいことが知られる。

②社会科往来は、教育資料館においては、5本で4.6%、光丘文庫においては、2本で1.2%の所蔵であり、それぞれに占める割合が少ない資料であることが知られた。③語彙科往来についても、教育資料館では、3本で2.8%であり、一方の光丘文庫でも4本で2.5%という結果であり、比較的少数であった。

⑤地理科往来は、教育資料館においては、11本で10.1%と比較的多く確認されたが、光丘文庫では、3本で1.8%と少なかった。⑥産業科往来については、教育資料館では10本で9.1%であり、光丘文庫でも同じ10本を数えたが、総数からの割合では6.1%となった。⑦歴史科往来については、教育資料館において

は、7本で6.4%であり、光丘文庫においては、12本で7.4%であった。

つまり、①教訓科往来については、教育資料館と光丘文庫それぞれで比較的多い割合を占める資料であったが、②社会科往来と③語彙科往来は、教育資料館と光丘文庫それぞれにおいて、比較的少ない所蔵資料であったといえるであろう。

④消息科往来は、教育資料館、光丘文庫ともに総数に占める割合としては20%前後と同程度であるといえるが、⑤地理科往来については、教育資料館においては多数の所蔵が確認されるが、光丘文庫においては少数と相違点があった。

⑥産業科往来と⑦歴史科往来については、教育資料館でも光丘文庫でも、比較的総数に占める割合に大差はなかった。⑧理数科往来については、教育資料館で1本しか所蔵がみられない資料であったが、一方の光丘文庫では、33本で20.2%を占める多数資料であることが確認できたのである。

⑨女子用往来については、教育資料館、光丘文庫それぞれに共通してある程度の所蔵数がみられる資料といえるであろう。

以上のように目的別に分類して整理した結果、教育資料館と光丘文庫の相違点と共通点が明示できたといえるであろう。最も注目すべき点は、①～⑨に分類した資料が、それぞれの地域において多少の偏在があるとはいえ、すべての領域にわたる文献の所蔵が確認できたことである。

3-3 弘前市立図書館および秋田県立図書館所蔵資料との比較

ここでは、すでに実施した他地域の状況と少し比較しておきたい。参考までに示すと、たとえば、弘前市立図書館⁶⁾では、往来物資料と判定した近世期版本の該当資料は総数が197本であり、他地域に比して圧倒的に多いことが確認された。目的別分類の内訳をみると、最も目につくのは、著名な『庭訓往来』を含む④消息科往来であった。これに次いで⑥歴史科往来、⑨女子用往来、①教訓科往来となる。しかし、これら三種は、それぞれ全体に占める割合が、15～17%とあまり大差はなかった。そして、多数の往来物資料を有する弘前市立図書館において、所蔵が見られない領域のものが⑧理数科往来であった。

一方で、秋田県立図書館の所蔵資料⁷⁾についてみると、総数50本のうち、⑧理数科往来と⑨女子用往来で

その半分以上を占めていた。これは秋田県立図書館所蔵資料のひとつの特徴を示しているといえよう。一般的に女子用往来は、近世期にかなりの種類が出版されていることが知られているが、理数科往来⁸⁾については、その時代的背景や当時の思想からの影響で、近世期の版本は少ないといわれてきた。秋田県立図書館の理数科往来資料は、『国書総目録』にも記載がない、未確認未詳の重要な文献であり、拙稿における調査結果は貴重であると思われる。

他方、秋田県立図書館においては、②社会科往来と⑤地理科往来の所蔵が未確認(0本)であり、目的別分類においての偏在がみられるのである。

⑧理数科往来資料の多さでいえば、酒田市立光丘文庫⁹⁾においては、さらに顕著な特徴を示しているといえ、前述したように33本で総数に占める割合は約20%であった。加えて光丘文庫では、京都大坂といった関西文化圏で出版された資料の多いことも興味深い調査結果であった。

岩手県立図書館所蔵資料においては、近世期版本の往来物資料総数が6本と少なかった。そのため総数における割合も含め、今回は比較対象としては採りあげなかった。

他地域の状況について概観したが、目的別に分類して考察した結果、教育資料館と光丘文庫では、目的別の①～⑨の分類において、すべての領域の資料が確認できたことは、注目できる点であるといえよう。

【図3】として、地域ごとの所蔵状況について、目的別に分類整理した資料数を棒グラフで掲示した。より明確に所蔵の実態と偏在状況を確認することができるとと思われる。

4 所蔵資料についての紹介

ここでは、所蔵資料について少し紹介しておきたい。文献資料の書誌、刊年や出版年、内容面などの詳細については別稿に譲ることにし、目的別の分類にそって、書名を中心に紹介する。

目的別分類における①教訓科往来は、道徳を説いたもの、しつけに関するもの、金言や格言を紹介したものなど種類も多い。教育資料館では、該当の往来物資料が26本所蔵されていた。例えば『実語教童子教』など当時普及していた教訓科の往来物資料が、多数多種確認された。『童子教稚絵解』や『仮名付実語教童子教』など、小さい子供に配慮して作成された資料も所蔵されていた。また、注目すべき資料としては、調査

した他地域一秋田・弘前・酒田・八戸・岩手一にも所蔵されていない、「天保九年」の『富貴自在集』が確認された。著者は大関為孝（忍齋）で教訓書であるが、『国書総目録』によれば、この版本の所蔵は「内閣・京大谷村・神戸大・日比谷・東京・蓬左・成田」とあり、教育資料館所蔵本は記されていない。

②社会科往来としては、5本の所蔵が確認され、例えば『御成敗式目』が挙げられる。

③語彙科往来としては、『七ついろは』『節用字引』など3本が所蔵されていた。

④消息科往来としては、『庭訓往来』系統のものが注釈も含めて11本、それ以外に分類できる一般消息のものが15本で合わせて26本確認できた。『庭訓往来』系統には、『庭訓往来』だけでなく『庭訓往来註』なども含めて数えた。それ以外に『筆得要文春秋袋』『手紙之文言』などが見られた。

⑤地理科往来としては、『地方往来』『東海道都路往来』など11本が所蔵されていた。貴重な文献資料として、『南都名所記』が挙げられる。これは「宝暦四」「寛永五改版」と記されている文献資料であり、「南都大仏西門前 絵図屋庄八版」とあるが、この資料についても『国書総目録』には記載がない。『国書総目録』によれば、『南都名所記』は東北地域の所蔵が「弘前」に合冊本として「文政元年版」が所蔵されているとある。「文化二版」「嘉永元版」もあるらしく、西日本地域に所蔵が多いようである。

つまり、ここで言及した、教育資料館所蔵の『南都名所記』は、今後詳細な検討を要する文献資料であると考えられるであろう。また『山寺状』といった珍しい地域性あふれる往来資料の存在が見られたことも付記しておきたい。

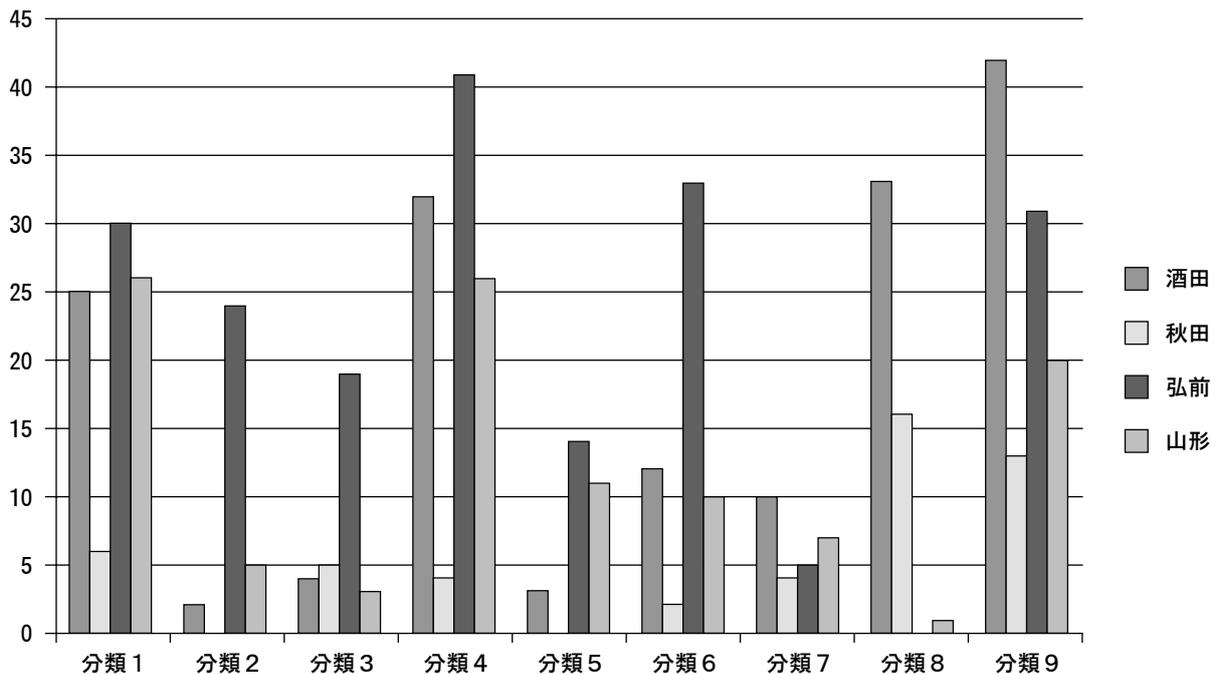
⑥産業科往来としては、10本の所蔵が確認された。著名な堀川流水軒の『商売往来』や『童訓商売往来』『商売往来絵字引』のほか、天童出身の僧、栄岳著作の農業の心得が記載された『農業手習教訓書』が注目される資料といえる。

⑦歴史科往来は、『大全古状万歳楽』『智学古状揃』など7本が確認された。

⑧理科科往来は、一般に理學型と算数型に分けられるが、教育資料館においては『最上流二一天作』の1本だけであった。

⑨女子用往来は、20本の所蔵であった。総資料数における割合は、18.3%で、①教訓科と④消息科に次いで多かった。教育資料館に限らず、【図3】からも明らかのように、酒田、秋田、弘前でもこの女子用往来資料の所蔵数が多いことが知られる。女子用の往来物資料は、日常生活総合教科書といった体裁をとるものが多いが、各家庭で常備されて利用されてきた一面がうかがえる。

たとえば『女今川』は、女子用往来資料において最も普及したものである。貞享4年板系統と元禄12年板系統の二種に大別されるが、江戸中期から明治期に至



【図3】酒田・秋田・弘前・山形 目的別分類による所蔵資料数

るまで、250種以上の板種と20種以上の異本を生んでいる。教育資料館においても、刊行年や出版地域が違うものがいくつか所蔵されていることが確認できた。他にも『女大学寶文庫』『女今川姫鑑』『女大学教草』『女中庸教訓鑑』など多種多様なものが所蔵されていた。女子用往来物資料には、近世期の女性に対する教育面だけでなく、当時の思想や風俗についても見るべきものが多く、貴重な資料といえるであろう。

5 まとめにかえて

山形県立博物館の教育資料館に所蔵されている往来物資料について、目的別に分類整理し、その調査結果を報告しつつ考察分析してきた。今回、調査対象であった近世期の版本である往来物資料は、109本を数えたが、それらの所蔵状況をグラフ化することで特徴を明示できたと思われる。

本稿では、内陸部である山形県立教育資料館の状況について紹介するとともに、特に比較対象として、日本海沿岸の酒田市立光丘文庫の状況についても検討し、両地域における、目的別分類の相違点と共通性について言及した。

他地域の状況についても概観してみると、弘前市立図書館は、他地域に比して所蔵往来物資料数が圧倒的に多いが、教育資料館と同様に④消息科往来が最も多い資料であることが確認できた。これに次いで⑥歴史科往来、⑨女子用往来、①教訓科往来となるが、これらは、それぞれ全体に占める割合にあまり大差はなく、突出して多数を占める領域があるとはいえなかった。加えて、多数の往来物資料を有する弘前市立図書館において、所蔵が見られない領域のものが⑧理数科往来であった。

一方で、秋田県立図書館の所蔵資料についてみると、総数50本のうち、⑧理数科往来と⑨女子用往来でその半分以上を占めていることが特徴といえる。⑧理数科往来の多さでいえば、酒田市立光丘文庫が最も顕著な特徴を有しており、33本を数えて最多であった。同じ山形県でも教育資料館においては、理数科往来はたったの1本であり、地域による偏在があることを確認することができた。

本稿では、山形県立博物館教育資料館の往来物資料について、それらを目的別に分類整理し、他地域との状況比較をグラフ化して提示してみた。限定的な側面からの検討結果であるが、目的別だけでなく、出版地別の分類分析からも、教育資料館においては、仙台

で出版された文献資料が確認できることや他地域では所蔵がみられなかった資料が確認されるなど、注目すべき調査結果が得られた。具体的な資料の紹介を含めて、出版地域別の分類分析など、他の観点からの考察検討については、さらに研究をすすめ、別稿に譲ることにしたい。

文化的背景や教育環境などの地域特性について、また往来物の資料的価値や内容面からの考察など、残された課題について、今後も研究を続けたいと思う。

注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書10巻 武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名」(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)等参照。
- 2) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 3) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書 往来物の研究 第1輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、『酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)等参照。
- 4) 石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)の「理数科往来」についての分類を参考とし、「本草・園芸関係」の資料は含まないと規定した。
- 5) 拙稿『酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—』(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)参照。
- 6) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書 往来物

の研究 第1輯』、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月）参照。

- 7) 拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要第103号、2010年3月』)参照。
- 8) 石川松太郎『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)の178～190頁参照。「理学類」の項目で「江戸時代は、自然諸科学およびこれを支える思想がじゅうぶんに発達普及しなかったから、必然的にこの方面にかかわって作られた往来の種類は少ない。」とある。
- 9) 拙稿『酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出

版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)参照。

付記

貴重な文献資料の閲覧許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、山形県立博物館教育資料館の関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

本研究は、平成24年度 科学研究費補助金(基盤研究(C) 課題番号23520541)の研究助成による研究成果の一部である。

(2012. 8.22 受理)